

アワーミュージアム

第28号 2005年7月30日発行



絵図ウォーク（徳島城址を歩く）

右原 脩（友の会会員）

米蔵のない城はない

徳島城を「鷲の門」から案内する人が多いが、私はいつも文化センターの前から始める。城の南はしであるだけでなく、たいていの人知っている徳島城の知識から説明できるからである。

向かい側の裁判所が、徳島城の「新蔵」のあった場所であること、周辺が「新蔵町」であること、城内の米蔵が狭くなったので城の外に蔵が造られ「新蔵」と言われていたことなどは、多くの徳島市民が知っていることである。

狭くなった古い米蔵がどこにあったかは、たいていの人知らないの、長屋のような長い建物だらしくて「長蔵」と呼ばれていたこと、文化センターの場所がその跡であることと徳島城の南はしであることを説明する。

広い国道で城跡が分断されていることと現在の文化センターの場所が城の一部であったことは、徳島城跡の説明で言い落とすことができない。

徳島城には、現在バラ園になっているあたりに「北蔵」という米蔵もあって、藩士のサラリーである米麦を支給するところだったことも言い忘れることはできない。

このような米蔵は、城に必ず無くてはならないものだが、私たちが城を見に行くと米蔵のあること、あったことを説明されることはない。日本中の城で、現在米蔵があるのは京都の二条

の米蔵の遺構ということで文化財になっている。城で戦うためには、米蔵があって米を蓄えていなければならない。こんな単純なことを忘れて、私たちは城跡を見ているのである。大量の米俵を運ぶためには船を使うのが便利であり、船着場・荷揚場があったはずだし、米蔵への搬入路は人が一人しか通れない細い道や急な階段ではなかったはずである。

明治になると気がつかないうちに、各地の城の米蔵は取り壊された。米蔵がなくなれば、その城は戦えなくなるからである。

徳島城の「長蔵」は、その後刑務所として使われていたが、明治16年焼失したので「お花畑」庭園跡に移された。それが徳島市民の知っている出来島の刑務所で、現在の地方合同庁舎・市立体育館のあるところである。

城には生活の支援ゾーンがある

徳島中央公園の寺島川沿い（徳島駅側）は徳島市内で一番汚いところである。地面が少し高くなって夾竹桃が植えられているのは、寺島川の汚泥を揚げた土手で他の樹木が育たないからである。土手になって近づきにくいので、公園が隅々まで利用できない。風情のない夾竹桃を他の花木に変えるだけで公園が広く利用できるようになる。鉄道にも小屋を無くして風景をよくするように要望すべきだ。公園からの徳島駅の眺めを小屋で遮る必要はない。子供たちが動く列車を飽きることなく見ることができるよう。

もんむかし、^し相模立図書館の正面の川岸に「塩入門」とも「塩蔵門」とも呼ばれた門があり、現在も片側の門台の石垣が残っている。その門に船を着け、塩だけでなく城内の生活に必要な物資^{びざい}を運び込んだ^{とまきすくぐ}とまきすくぐである。近くに「塩蔵」や「舂米所」とか「味噌蔵・薪炭蔵・油蔵」などがあって、旧県立図書館のあったあたりは城内の生活を支援する施設のある区域であった。(話は明治以前のことだが、位置として旧県立図書館を使わなければ表現しよう^{がなげ}がなげ。)

徳島城への出入りは鷲の門→下乗橋しかないように思えるが、城内の人の食べる魚は魚屋さんが鷲の門→下乗橋から運び込んだ^ののではなく、魚屋さん^のの^の装蔵^{もん}あたりから入って「太鼓櫓」の下にある「桜馬場口門」で鑑札を見せて通してもらい、「桜馬場」を^の通って旧県立図書館あたりへ運んだらしい。今日では「桜馬場」の^のあったことが知られていない^し。

絵図を持って徳島城址(中央公園)で^を歩くと、簡単に納得してもらえることだが、御殿のあった一画と旧県立図書館のあった一画は完全^に別のものであった。現在、「太鼓櫓」があった石垣が孤島のように残っている^が、^{それ}と同じ規模の石垣が城^{まで}まで続いていた。上に櫓や多聞のある石垣で、徳島城の威容を示すものだったらしい。その^の石垣^があって御殿の一画(ふつうは「本丸」だが徳島城では「御殿曲輪」あるいは「御屋敷曲輪」と呼ぶ)が守られていた。公園にするとき石垣は取り払われて一続きの広場になった^が、^{その}石垣と寺島川岸の塀の間が「桜馬場」と呼ばれる通路である。「剣先橋」は公園への入口に架けられた橋である。

「塩入門」の門台が片側しか残っていないのは、公園へ蒸気機関車を搬入するとき片側が壊されたままになっているためである。修復すれば「塩入門」あたりは、城の雰囲気の色濃く残っているところである。



絵図ウォーク・鷲の門付近
(2004年5月)



絵図ウォーク・太鼓櫓跡付近
(2004年5月)



絵図ウォーク・月見櫓跡付近
(2004年5月)

博物館紹介 26



徳島県郷土文化会
館—阿波木偶資料

藤川 草司

((財)徳島県文化振興財団 事業部主任)

阿波木偶資料館は、徳島県文化振興財団が所蔵

する民俗文化財のうち、「阿波木偶」(徳島県を代表する民俗芸能である人形浄瑠璃に使用される人形)を中心に常時展示し、徳島の伝統芸能を永久に伝えていくことを目的とした公開施設で、徳島市藍場町2丁目14番地の徳島県郷土文化会館5階にあります。

資料館は2つの部屋からなり、第1室には特「木偶の種類」(鑑)「時代別木偶」(企)「作者別木偶」という3つのコーナーが設けられています。

木偶の種類では、角目カシラは男役で主役を演じるカシラ、丸目カシラは男役で敵役(悪役)を演じるカシラ、寄年カシラは老人のカシラ、というようにわかりやすく解説付きで木偶を展示しています。

時代別木偶では、江戸時代のもの、明治時代のもの、大正・昭和時代のものと分けて比べて見てもらうように展示しています。

作者別木偶では、特に阿波は数多くの優秀な人形師を輩出しており、阿波の人形師の祖と言われる馬之脊駒蔵が作った木偶を始め、天狗久・人形忠・天狗弁・大江順などの有名な作者の木偶を展示しています。

第2室では、(協)「人形芝居の名場面」(労)「人形芝居の衣装と諸道具」の2つのコーナーがあり、「絵本太功記」「傾城阿波の鳴門」「新版歌祭文」「建治山御法之花」などの浄瑠璃の外題に合わせたもので、たびたび展

などいろいろなものも展示しています。最近寄贈を受けた、天狗久作の新版歌祭文・お染の衣装付き木偶なども展示しており、見応えは十分です。

さあ、あなたも木偶カシラとどうぞお話をしてみてください。一つ一つの木偶に違った表情があり、何かを語りかけてくれているようです。阿波徳島の伝統に触れ、故郷に、そして自分自身に誇りが持てること間違いなしです。入場料も無料ですし、徳島駅から歩いて10分足らずというすばらしい立地条件にもあります。

目録やスタンプなども用意してお待ちしております。「百聞は一見にしかず」と申します。まだご覧になっていない皆様は、是非一度足を運んでみてください。



阿波木偶資料館入り口の様子



展示ケースに展示されている木偶

博物館紹介 27



竹中大工道具館（神戸市）

いしはら すずむ 右原 稯(友の会会員)

県立図書館・文書館に勤めていた藤丸昭さんは、父親が山奥の村で素次大工をしていたとかで、こどもの時から大工道具に興味を持っていたという。岩波新書の村松貢次郎『大工道具の歴史』を読んでいるとかで、何だったか二、三聞かれたことがあって「竹中大工道具館」の図録を貸したことがある。彼が「竹中大工道具館」へ手紙を出して質問したところ、親切な回答があり図録も送ってくれたと喜んでた。

「竹中大工道具館」は（神戸への高速船があった頃は、中突堤からまっすぐ北へ歩き）JR元町駅の北側の兵庫県庁北側の広い道路を渡るところにある小さい博物館である。竹中工務店が創立 85周年を記念して造った企業博物館だが、企業博物館といっても建築会社だから自社の製品を展示するわけにはいかない。それで建築の陰に隠れた大工道具の博物館を計画した。そのころは高度経済成長期で、電動工具が現れ工法や材料が変化して、大工道具が急速に無くなりつつあったという。昭和55年から収集を始め、大工道具1万2千点と製材道具・鍛冶道具・文献など2万3千点の資料を集め、昭和59年に開館した。失われようとしていた日本技術史の貴重な資料が収集展示されている博物館である。

日本の大工が、たくさんの道具を必要としていることはよく知られているが、実際にどれくらいの道具を持っていると一人前なのかはよく分かっていないらしい。その唯一の物的証拠がこの博物館にある。桜田門外の変で殺害された井伊直弼が生前使っていた大工道具の一式が収蔵されていて、どれくらいが最低の一組かが分かる。趣味が大工仕事といっても家を建てるこ

とはないと思うから、指し物大工が幕府の大老の趣味だったという。

小規模の博物館だが、一階は「道具の歴史」、二階は「木と匠と道具」、三階は「道具と鍛冶」がテーマで、課題の石器から現代までの道具の移り変わり、日本の木の種類や木造建築の技法を伝える古代寺院の木組みが、技術を支える多数の大工道具と共に整然と展示されている。

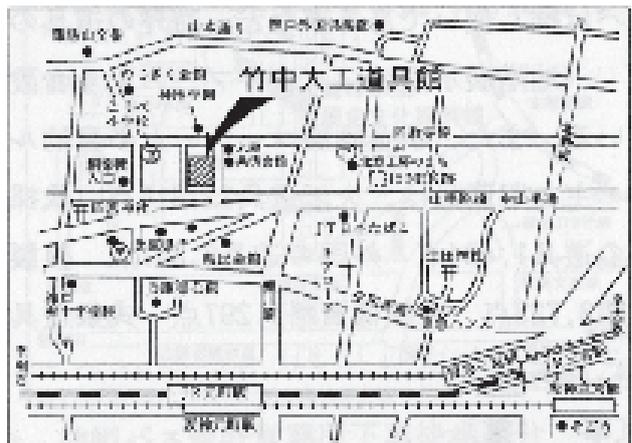
★竹中大工道具館

場所 神戸市中央区中山手通4-18-25

電話 (078) 242-0216

交通手段 JRあるいは阪神電車「元町駅」から北へ徒歩約10分

休館日 月曜日



博物館紹介について

このコーナーでは、これまで多くの徳島県内の博物館を紹介してきました。今回、石原侑友の会会長から他県の博物館についても紹介していいかどうかという提案があり、実験的に会長からいただいた記事を掲載しました。

アワーミュージアムでは、今後も多くの博物館等を紹介していきたいと思っておりますので、県内外を問わず、いろいろな博物館の紹介の記事をお待ちしております。

友の会行事報告



神戸日帰り研修を終えて

○佐竹 敬子（友の会会員）

6月5日、初めて研修に参加させていただきました。小学2年生の息子は神棚にパンパンと手を合わせて「行けますように」と神頼みをしていただけあって、参加させてもらえる返信ハガキをいただいたときから心は既に水族館に飛んでいました。

当日の天気は良好で、皆でバスに乗って出かけるのは大人の私まで遠足気分ではウキウキ、ワクワク。須磨海浜水族園では、イルカショーを見てジャンプする姿に「ウアー」、飛ぶ水しぶきに「キャー」。魚たちの涼しく泳ぐ姿に「カワイイネ」、「カワイイネ」。五色塚古墳は、正に初めての体験で、むかしの人はすごいなあと感心、感動で、ここには研修でつれてきてもらえたから来られたのであって、自分ではなかなか来ることが出来ないと研修に感謝するばかりです。

明石市立天文台もなかなか自分では来られないところですが、展望台からは明石海峡大橋が美しく、プラネタリウムでは星空が美しく、襲ってくる睡魔との戦いでもありました。さらに明石城趾公園は緑豊かな公園で、ここでは息子が

本領を発揮して、走る走る。

一日の研修で何日分も体験させてもらったような一日でした。とても楽しく有意義な一日となりました。ありがとうございました。

○佐藤 美穂（友の会会員）

すま水ぞく園のイルカショーでは、ステージに上がってF1（イルカ）とあく手したりとか出来てとてもうれしかったです。五色づか古墳の上から見たけしきはさい高でした。天文か学かんで、プラネタリウムが星でいっぱいきれいでした。それから135ど子午線をふみました。またいろいろな時計があってびっくりしました。とても楽しかったです。

こんどうさん、おしゃしんどうもありがとうございました。うれしかったです。

今年こそ、地引きあみができますように。

○商部 映子（友の会会員）

今回初めて参加させていただきました。こどもから年配の方までいろいろな世代の人たちと一緒に旅行できるところが、この友の会の旅行の良さではないかと実感しました。

この旅行に参加しようと思ったきっかけは、“水族館にこどもを連れて行ってあげたい”という思いからでした。でも、古墳も天文台もお城も、意

外といいものでした。

というのも、私は古墳などには全く興味がなかったのです。きっとこの旅行に参加しなかったら行くこともなかったでしょう。

う。旅行に参加することによって、古墳などを見て歩いて……

興味のなかった分野



明石天文科学館にて



五色塚古墳

に触れてみて、歴史（古い分野）なのに新鮮さを感じてしまいました。不思議な感覚にいい体験が出来て良かったと思いました。お世話になりました。

○おかべ あきら（友の会会員）

たのしかったです。ありがとう。

かわかみ さえこ

○川上 左恵子（友の会会員）

先日は希望者の多かった中より幸運にもめぐまれ参加させていただきました。

4カ所の日帰り研修はみんな有意義でよい勉強になり、特に水族館や天文館などは子供に還ったような気持ちになり、楽しく興味深い一日を過ごせました。本当にありがとうございました。また参加したいと思います。

もりぐち しげる かよ

○森口 繁・加与（友の会会員）

先日は早朝よりの日帰り研修に家内同伴で参加し久しぶりに童心に還り、一日楽しくすごすことができ、本当にありがとうございました。

特に天文科学館ではプラネタリウムによる星空が星座のなかできらきらと輝く姿、また五色塚古墳では障害物もなく全体像がきちんと見え、古代の生活が想像できました。本当にお世話になりました。

ちゅうじょう さとし

○中條 文（友の会会員）

明石大橋を道路感覚で渡り本州へ、須磨海浜水族園では、子供の目線で見学しました。魚類を身近に観察する時の子供の表情がとても豊かで、思わず童心に返りました。五色塚古墳では、緻密に復元した巨大な墳墓に圧倒されました。埋葬者は誰か。海を支配した氏族の長と考えられますが、権力者を支えた民衆、塚の工事に従事した労働者の苦役が目につきました。

天文科学館では、星の観測と緯度・経度の話に興味があり、洋上で天体観測に苦労した昔を思い出しながら、宇宙科学の進歩を実感しました。また同地が高山右近の築いた船上城跡であることは、城主の五輪塔を見て納得しました。

現在の明石城は、船上城の近くにありますが、10万石の城址としては縄張りが広く、丘陵を活用し防備にすぐれた城のように感じます。明石城が西国雄藩の押さえとして、幕命により築城されたことを、今回初めて知りました。明石市は城址をシンボルとして、町造りを進めているように思います。城址に見える白亜の櫓を見ると、心が安らぎ、郷土愛も自然に生まれることでしょう。

徳島には徳島城址がありますが、シンボルとして共有するには、整備が遅れております。本丸跡に白亜の天守閣を、無理ならば月見櫓の再現を、この願い夢ですか。

今回の研修は、近場で見所が多く時間に余裕があり、高齢者向けであったと感謝しております。会長、事務局の方々有難うございました。次回を



明石城址

平成 17 年度総会の報告

5月1日(日)午後1時より、博物館3階の講座室において、友の会総会が開催されました。16年度の事業および決算報告、17年度の事業および予算案についての審議が行われました。

●平成17年度友の会行事(予定)

1. 日帰り研修

実施日:6月5日(日)

場 所:明石天文台, 須磨海浜水族園, 五色塚 古墳等

2. 地引網体験

実施日:7月31日(日)

場 所:阿南市竹林

3. バッタオリンピック

実施日:9月4日(日)

場 所:吉野川河川敷

4. 一泊研修 山の辺の道を歩こう

実施日:10月22日(土)~10月23日(日)

場 所:奈良県桜井, 天理

5. 絵図ウォーク

実施日:11月13日(日)

場 所:徳島市中央公園

6. 八万の昔を探ろう

実施日:11月20日(日)

場 所:徳島市八万町

7. 梅見会

実施日:3月5日(日)

場 所:神山町

※この他にも行事が計画・実施されることがあります。

●平成17年度友の会事業計画

1. 広報活動

博物館の広報印刷物を提供する。

2. 展示解説・図録の増刷及び販売

17年度博物館企画展の図録を印刷し、販売する。

3. 会報の原稿募集並びに発行

友の会会報「アワーミュージアム」No.28~30を 発行配布する。

4. 会員の募集

新しい会員募集案内を作成し、新会員を獲得する。配布先についても新規開拓をしていく。

5. 博物館普及行事へのボランティアとしての協力を広く会員に呼びかけ、普及行事の手伝いをする。

●平成17年度友の会役員

会 長 石原 侑

副会長 和田賢次・関 眞由美・

両角芳郎(博物館館長)

幹 事 多田精介・樫原剛一・南部洋子・

澤 祥二郎・木下 覺・大杉洋子

監 査 石尾和仁・川下浩子

平成16年度決算および17年度予算

【収入】			
項目	16年度予算	16年度決算	17年度予算
会費	485000	516500	480000
行事参加負担金	661000	870200	852500
図録等売上	600000	473755	650000
雑収入	10000	13350	10004
事務局整備積立金より	350000	72000	0
前年度繰越金	171825	171825	193306
利息等	0	1004	※0
合計	2277825	2118634	2185810
			※雑収入に含む
【支出】			
項目	16年度予算	16年度決算	17年度予算
図録印刷費等	358500	327500	466000
グッズ製作費	350000	72000	0
館利用促進費	65000	91800	68000
行事費	979800	990205	1100000
通信費	420000	374982	400000
事務局費	41625	29154	40000
保険料	5000	387	5000
総合案内積立金	48000	39000	50000
予備費	9900	0	16810
報償費			40000
合計	2277825	1925028	2185810

新スタッフ紹介

●森口 正一（総務課主幹）

4月1日付で川島財務事務所から転勤してまいりました。博物館でお世話になるのは初めてのことですが、異動の内示をいただいた時には、職員歴の大半を教育委員会関係で勤務していたので、古巣に帰る感じがいたしました。

ところが、博物館での勤務は初めてのため、戸惑いの連続で、周囲の方に支えられながら日々勤務をしています。

博物館を取り巻く状況を考えてみますと、減少しつつある予算をいかに有効に活用し、県民の博物館活動に対する期待にいかに応えていくかが求められています。また、本年度からは鳥居記念博物館の文化の森への移転事業が本格的に始まります。

このような非常に重要な時期に博物館へ転任してまいりまいりましたが、博物館活動の活性化のため役に立つことができると考えています。

どうかよろしく願いいたします。



事務局からのお知らせ

あなたの原稿待っています

この会報「アワーミュージアム」にあなたも投稿してみませんか？専門的な文章はちょっとねえとお考えの方も多いかとは思いますが、そこでまずは以下の項目で原稿をお寄せいただきたいと思っています。

- 博物館紹介
 - ・ご近所の博物館
 - ・行ったことのある博物館 等（県内外を問いません）
- 会員広場
 - ・ご近所で話題になっているトピックス的なもの
 - ・へえ～というトリビア的なもの
 - ・趣味やサークル紹介など

※小・中・高校生の方の原稿も大歓迎です。

- ・原稿は、はがき・FAXなど、どのようなかたちでも結構です。
- ・イラストや写真だけの投稿も歓迎します。
- ・投稿においては会員番号、氏名をお願いします。
- ・校正の段階で多少の加筆・修正をさせていただくことがあります。御了承ください。

行事スタッフ募集

友の会では行事のチラシの作成や、写真・ビデオ撮影等のスタッフとして協力いただける方を募集しています。

お友達・ファミリーでの参加も大歓迎です。

詳しくは友の会事務局までお問い合わせください。

※今号は予定より1ヶ月遅れの発行となってしまいました。長らくお待たせし、申し訳ございませんでした。

第28号

2005年7月30日 発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内

No.28

July
2005
Tokushima
Prefectural
Museum

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム

